

# さわやかな あさ

ぼくは おかあさんと いっしょに ならこうえんへ よくあそび  
に いくんだ。

ならこうえんは ぼくの だいすきな ばしょなんだ。

だってね。

はるは さくらが さき きれいなんだ。

なつは おおきな くすのきのしたにいと きもちが いいんだ。

あきは どんぐりやまつぼっくりが いっぱい おちているんだよ。

ふゆは ゆきがふると すごく きれいなんだ。

ゆきのうえを あるくと ザックザック と おとがなって たのし  
いんだよ。

それにね。

しかが いっぱい いっぱい いるんだよ。

ぼくが そばにいくと おじぎを するんだよ。

「こんにちは！」ってね。

ならのしかは むかしから たいせつに されているんだって。

こんな おはなしが あるんだ。みん  
な しっているかな。

むかし むかし ずうっとむかしの  
おはなし。

ある かみさまが とおいくにから  
しかのせなかに のって ならのかず  
がたいしゃに きたんだって。

だから ならのしかは “かみさまの  
おつかい” と いわれているんだ。



ならのしかって すごいでしょ。

ぼくの おとうさんは しかのかずを かぞえたり  
びょうきや けがを していないかな。げんきに しているかな。  
と せわを したりしているんだ。

しかのことなら なあんでも しているんだよ。

にちようびの あさ

ぼくと おかあさんは かすがたいしゃから ゆっくりと あるき  
ろくえんまでおさんぽした。

すると ろくえんのなかでは いっとうのしかを おとこのひとた  
ちが まるく かこんでいた。



ようくみると その しかは  
おなかが おおきく  
くるしんでいた。

「あ、おとうさんだ。」

ぼくは おとこのひとたちの  
なかに おとうさんをみつけた。  
そばによって いった。

おとうさんは しんけんなかお  
で しかをみつめていた。

まわりのしかたちも しんぱいそうな かおで おかあさんのしかを  
みていた。

「なんだか しかが ないているみたいだね。だいじょうぶかな。」

そして こころのなかで「がんばれ がんばれ。」と いった。

まわりのしかも 「がんばれ もうすこしだよ。」と いているよ  
うだった。

だれも じっとして うごかない。

おかあさんのしかは とても くるしそうだった。

「がんばれ あとすこし。」

ぼくは さっきより すこしだけ おおきなこえで いった。  
そのこえが おかあさんの しかに とどいたのだろうか  
こっちをみて おじぎをした。

「ありがとう。」

と いているようだった。

とうとう あかちゃんが うまれた。

ぼくは なみだが でて とまらなかった。

おかあさんのしかは やさしく あかちゃんをなめていた。

しばらくして こどものしかは ゆっくりと たちあがって おかあ  
さんしかの そばに いった。



ぼくは ほっとして

「やったあ。」と ころのなかで とっても おおきなこえで さ  
げんだ。

かえりみち、ぼくは おかあさんのてを ぎゅっと にぎった。

そして、

「おかあさん……。」

と いった。

おかあさんは てを ぎゅっと やさしく にぎりかえし にっこり  
わらっていた。

